

令和2年度豊橋市健幸なまちづくり協議会 第1回生活習慣病対策部会（がん対策）議事録

日 時	令和2年11月26日（木） 13:30～14:30
場 所	豊橋市医師会 第1会議室
出席者	令和2年度豊橋市健幸なまちづくり協議会生活習慣病対策部会（がん対策）委員5名
事務局	豊橋市保健所健康増進課
事務局	<p>&lt;議題1 胃がんの現状について&gt;</p> <p>資料1について説明</p>
事務局	<p>&lt;議題2 がん検診の現状について&gt;</p> <p>資料2について説明</p>
委員E	（5）胃がん検診の受診率における現状と課題で、「健康とよはし推進計画の目標値20%に達していない状況」とあるが、目標値を20%とした根拠は？
事務局	国はがん検診の受診率目標を50%としており、胃がんについては当面40%が目標であるが、豊橋市では現状を踏まえ、目標値を20%に設定している。目標値には社会保険加入者も含まれている。
委員C	社会保険加入者の受診率も把握できる方法が国としても必要。
委員A	特定健診とがん検診の検診票が別々に郵送されているが、受診率を上げる方法として特定健診とがん検診を一緒に送ることは可能か？
事務局	両者の内容と対象が異なるため、同封して送ることは難しい。現在は特定健康診査の受診券発送時に、がん検診の受診案内を同封している。
事務局	<p>&lt;議題3 胃がん検診の精度管理について&gt;</p> <p>資料3について説明</p>
委員D	胃がんの発見率は、国の指標を満たしているか？
事務局	豊橋市の胃がん発見率はR1年度0.21%であり、国の基準を満たしている。
委員D	生検率は国の許容値を超えているか？
委員B	プロセス指標を医療機関別にみると、許容値内とそうでない医療機関と開きがある。
委員D	胃底腺ポリープや過形成ポリープ、びらんなど明らかに内視鏡下目視で診断できるものはむやみに生検しないよう啓発することはできるが、がんを疑って採取するものを止めることはできない。
委員B	適切な生検が行えるように啓発して、全体のレベルを上げることも必要。
委員D	がんを疑って生検する結果として、要精検者数が多くなるのは現場として理解できる。X線検査や内視鏡検査でも胃がんを発見するために要精検にしている場合と、胃がんの素地となる慢性胃炎を拾い上げる要精検があるので分けて集計するとわかりやすいと思う。

委員 B	X線の要精検率は慢性胃炎を含めてもそこまで高くはない。X線で要精検対象になるのは、慢性胃炎が多いのではないか。
委員 D	X線の要精検率は、慢性胃炎を除くとかなり低い要精検率になると思う。慢性胃炎が多いのが現状だと思う。また、X線で要精検と言われた人の精検受診率が低いのは、胃カメラを受けたくないからと思われる。
委員 B	患者さんの負担を考えて念のためでも生検を実施している医療機関があると思うので、その判断が難しい。
委員 A	現場の事情もあるので、理想の数字と現実には違いがある。今日は資料を基に解決策を検討するのではなく、今後の豊橋市のがん検診の方向性を考える場となっている。
委員 B	他の自治体でも同じような問題があると思うが、医療機関別の指導や、データを示しているというところはあるか？
事務局	他市では、精度管理が特に低い医療機関に対して検診委員会から指導したことがあるとのこと。他にも要精検率を医療機関ごとに把握し、著しく外れた医療機関にがん評価委員会から指導している市や、精度管理のため年1回研修会を開催している市もある。本市でも毎年2月に講習会を開催しており、指導の場として活用することは可能と考える
委員 A	精度管理や指導に関して、検診委員会でも検討していけると良い。